



序 文

阿波学会会長 平井 松午

令和3・4（2021・2022）年度の2年間にわたり実施してきました阿波学会による「小松島市総合学術調査報告」を、このたび阿波学会紀要第64号として上梓することができました。

阿波学会総合学術調査を受け入れていただきました小松島市の中山俊雄市長、教育委員会の小野寺 勉教育長、ならびに関係各位に感謝申し上げます。現地調査にあたって、小松島市の皆様には多大なるご協力を賜るとともに大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

阿波学会は、昭和29年（1954）に設立された学術団体（事務局：徳島県立図書館）で、徳島県内各地の市町村において、自然環境や歴史文化、地域社会に関わる総合学術調査を行ってまいりました。平成25（2013）年度からは県内2巡目の調査に入り、町村合併などにより町域も広くなったことから、2年を期間として調査に取り組んでいます。多岐にわたる研究テーマを掲げて、いくつもの研究団体が市町村を単位に合同で学術調査を展開しているケースは全国的にも珍しく、調査成果については『阿波学会紀要』という形で総合学術調査報告書を刊行してまいりました。

小松島市の総合学術調査につきましては、昭和43（1968）年度に初めて実施し、翌年2月に「総合学術調査報告」（郷土研究発表会紀要第14号）を刊行しています。それゆえ、小松島市での今回の総合学術調査報告書の刊行は54年ぶりとなりました。

令和3年（2021）6月1日に市制70周年を迎えた小松島市は、紀伊水道に面し小松島港を中心とする港湾都市として発展してきました。シギ・チドリといった旅鳥の渡来、夥しい数の貝殻が出土した考古遺跡、源義経伝説のある旗山、シラス・ハモなどの水産業や水産加工業、藍商・廻船問屋に残る貴重な文書群などは、そうした海との関わりを示しています。「阿波の狸合戦」もまた、小松島を代表する伝承文化といえます。他方、低地部が広がる小松島市では、紀伊水道沿岸での海岸浸食が顕著で、津波浸水や洪水のリスクも高く、そうした自然災害と関わって石垣・石積みの社寺や古民家、災害碑もみられます。今後、想定される南海地震対策などが大きな課題といえますが、自然環境や歴史遺産などを見直すことで、自然災害を再認識し、防災に役立たせることもできるのではないでしょうか。

私たちの調査成果の一端につきましては、令和4年4月29日開催の中間報告会でも報告させていただきました。コロナ禍の中、報告会には市民の方々にもご参加いただくことができました。令和5年3月には、最終報告会の開催や報告書の刊行も予定しています。そうした機会を通じて、ぜひ市民・県民の皆様には小松島市の素晴らしい、地域の資源や資産について再発見していただくとともに、今回の調査成果が地域の課題解決に向けての一助となることを願う次第です。

調査期間中も、前年からの新型コロナウイルス感染拡大が私たちの社会生活や経済活動にも多大な影響をもたらしました。「移動」が自粛されたことにより、この間、私たちの総合学術調査も大きく制約を受けることになりました。そうした中で総合学術調査報告書を刊行することができたのも、小松島市の皆様、関係各位ならびに阿波学会会員諸氏、事務局のご協力の賜物と考えます。

誌上を借りて厚く御礼申し上げます。有り難うございました。